

# 空手道学の略史とITによる手技術と 急所の相関モデル

沢 勲 Isao SAWA 摩文仁賢三 Kenzo MABUNI  
樋口豊治 Toyoji HIGUCHI 長田眞男 Masao OSADA

## *Correlation Model of Vital Points and Hand Techniques by IT and History of Abbreviation in Karate-do*

### ABSTRACT

The birthplace of karate is China. At the late 14<sup>th</sup> century, the Chinese martial arts called kenpo was propagated into Ryukyu Kingdom, present Okinawa.

Karate-do is a system of self-defense in which the main emphasis to use the body to the greatest effect to defeat an adversary, by precise kicking and striking techniques. Karate shiai, or contests, are of two types, kumite and kata. Kata consists of a series of formalized movements and the points judges look for are correctness of posture in the basic techniques and the change from one technique to the next, the accuracy of the kicking and striking, the quality of the kiai, which is a vocal expression of a contestant's mental concentration, and the overall pacing of the person's movement.

In kumite ("sparring") contests the emphasis in judging the winner is on the accuracy of the striking and kicking accompanied by the kiai, ma'ai (timing and keeping of proper distance) and zanshin (posture following attack, deemed to show both physical and mental preparedness). A match is decided when the judges acknowledge that one of the contestants could have knocked down the other. Karate-do are traditional Japanese martial arts which today are practiced as sports. In recent years have become extremely popular internationally as well.

*Key words* : Karate-do, Karate Technique, Model and Terminology of Karate

[大阪経済法科大学論集 第88号] [*The Review of Osaka University of Economics and Law, Vol. 88 (2004), pp 83-121*]

## 1. はじめに

空手道の発祥地は中国である。14世末に中国の拳法が琉球国（現：沖縄県）に伝わった。空手道は、手の突きや足の蹴りを主体に、身体の各部位を有効に使って身を防ぎ、相手を制する技を決めるものである。試合には、組手と型の2種類がある。型の試合は、基本動作と移動転身による正しい姿勢、正確な突き、蹴り、気合の充実、動作の緩急などにより勝負を決する。組手試合は、気合の充実した正確な突き、蹴り、間合い、残心などを重要な要素として、相手を倒しえたと判定される技をもって優劣を決める。空手道は、日本の伝統的な武道であるが、現在はスポーツとして親しまれている。最近では外国人の愛好家も非常に増加している。

空手とは、「空手・唐手とも呼ばれ」中国から沖縄へ伝来して発達した拳法から変化した武術である。武器をもたず、手足による突き・蹴り・受けの三方法を基本とする。

空手道の源流は、約2,600年前の中国では、騎馬民族（シキタニ）時代の「拳法」の古武道であった。ヨーロッパにおけるギリシア時代のもは今のボクシングに似ている。2,300年頃のインドでは、古代インド拳法が普及していた。14世紀末に中国の拳法が琉球国（現在の沖縄県）に伝播した。15世紀以降の禁武政策により一切の武器の所持を禁止されていた中で、琉球民族の伝統的な「手」という武術の研究が加わり、徒手空拳「唐手」として発展した。大正5（1916）年、船越義珍（松濤館流の創設者）が、京都の武徳殿で、多くの武術家の前で、沖縄を代表して、日本国内最初の公開演武を行なった。

その後、船越、喜屋武、摩文仁、宮城の各氏らは、慶応、早稲田大学を始め多くの大学や組織でも空手普及につとめられた。その活動が内外に認められ、「沖縄の空手」から「日本・世界の空手」に成長したのである。大正11（1922）年、嘉納治五郎の要請で文部省（現：文部科学省）主催の第一回体育展覧会で「琉球唐手術」として紹介され、講道館の門下生にも空手の指導が行われた経緯がある。昭和9（1934）年、嘉納治五郎氏の提議により（財）大日本武徳会

空手道の略史と IT による手技術と急所の相関モデル (沢、摩文仁、樋口、長田)

の柔道部門に組み入れられた。

これを契機に多くの空手家が本土を訪れ、「松濤館流」・「剛柔流」・「糸東流」と「和道流」という四大流派が創設された。以後、昭和25 (1950) 年、全日本学生空手道連盟が結成。昭和41 (1966) 年、全日本空手道連盟の結成。昭和44 (1969) 年、(財)全日本空手道連盟 (JKF) が発足するに至った。このようにして、日本 (沖縄) 固有の武術として生まれた「唐手」は、武道とスポーツの両面性を持つ「空手道」として発展した。昭和45 (1970) 年、第1回世界空手道選手権大会開催と同時に、世界空手道連合が結成され、以後、30余年の歴史が流れた。現在は世界各国に普及し1,000万人以上の同士が熱心に鍛錬している。

金澤弘和 (1987) は、空手組手全集の和英対訳の中でモデルが解説されている。Hidetaka NISHIYAMA and Richard c. BROWN (1960) は、手技・足技および立ち方の相関関係を図示化している。

本稿では、一般体育研究会に報告した ((2003年11月12日・本学総合科学研究会会議員室) 空手道の技法を体験から考案したモデルを次のように整理した。空手道の技法モデルには、①基本モデル、②技の基本モデル、③手技のモデル、④攻撃手技の突き方のモデル、⑤攻撃上肢の打ち方のモデル、⑥防御手技の受け方のモデルに分類し、そのモデルを図示化した。

## 2. 空手道の略史

空手道に関する国内の略史として、国内最初の文献としては、1300年前、三山 (北山・中山・南山) 戦争から、尚巴志王によって統一された。武器禁止政策をたてた記述がある。その後、現在 (2004年) までに多くの活動や組織の変遷による略史の報告とする。

Table 1 空手道の略史 (The History Abbreviation on Karate-do)

年	内 容
紀元前 600年前	空手道の源流は、中国の騎馬民族（シキタニ）時代の「拳法」の古武道であった。 ヨーロッパにおけるギリシア時代のものは今のボクシングに似ている。
紀元前 300年前	インドでは、古代インド拳法が普及していた。 13世紀末に中国の拳法が琉球国（現在の沖縄県）に伝播した。
850年	中国とインドの影響のタイ式ボクシング（850～900）。
1156年	保元の乱、源為朝（伊豆大島に流される、1165年沖繩運天港に漂着、1170年八丈島で殺される）。
1192年	鎌倉幕府創設。
1265年	僧禅鑑来琉。仏教伝来。百済から仏教（大和朝廷）が伝わる538年。
1266年	大島諸島初めて中山に入貢。
1279年	南宋亡ぶ。元の統一（1279～1368）。
1291年	元使来琉。入貢すすむ。琉球従わず。
1296年	元、琉球を攻める。
1300年	三山（北山・中山・南山）の対立戦争から、尚巴志王が統一（1429年）。 武器禁止政策をたてた第一回の禁武政策があった。 空手道の源流は中国の拳法が琉球国（現在の沖縄県）に伝わる。
1350年	中山、察度即位（1350～1395）。
1368年	明、建国。
1372年	揚載、来琉。中山進貢始まる。
1383年	南山、北山初めて明と通交。
1389年	中山、朝鮮（高麗）に使を派遣。シャムと通交開始。
1392年	中山、琉球の使者が中国に初めて留学生派遣。中国からは「三六姓移民あるいは、閩人36姓帰化」派遣された。道場は那覇と首里に集中した。 鄭義才一族による中国拳法の沖縄伝来といわれ「武備志」伝承された那覇手系の源流と推定される。
1400年	禁武政策により一切の武器の所持を禁止されていた中で、琉球の伝統的な「手」という武術の研究が加わり、徒手空拳「唐手」として発展した。1400年代。
1404年	冊封使来流。シャム船来流。南山王応王祖冊封を受く。

空手道学の略史と IT による手技術と急所の相関モデル (沢、摩文仁、樋口、長田)

1429年		尚巴志 (1422~1439)、三山を統一する。琉球王国の誕生。
1477年		尚真王 (1477~1526) (第一回目) 禁武政策。 士族や庶民のなかには、ひそかに徒手空拳の技術を修める者がでてきた。
1500年		1500年代、薩摩の島津氏の沖縄征服時に、武器を持って抵抗、不意の敵から守るため「徒手空拳」の闘争術の修練が土台になった。隠れて稽古を行ったというよりも、むしろ入門した者以外には教えなかったというのが実情に近い。つまり、誰もが唐手修行をできたわけではなく、例外を除けば、基本的に富裕な階級の者しか学ばなかった。
1534年		封冊使として陳侃が来琉。封冊使による唐手導入説となる。
1584年		戚継光「紀効新書」著す。
1609年		薩摩の藩主島津義久、琉球を侵略・征伐。(第二回目) 禁武政策。禁武政策がかえって幸いし、自己の安全と部族の保全のために密に唐手を研究。
1621年		茅元儀「武備志」著す。
1719年		封冊使来琉。玉城朝薫「組踊あるいは組躍」を上映。
1733年		唐手家佐久川親雲上寛賀生まれる (1733~1815)。
1797年		首里手・小林流祖の松村宋棍出生 (1797~1890)。
1828年		安里安恒出生 (1828~1906)、門下生には喜屋武朝徳・船越義珍・本部朝基・新垣安吉。
1830年		糸洲安恒出生 (1830~1915)、流祖の松村宋棍の門下生。門下生には屋部憲通・摩文仁賢和・本部朝桂・花城長茂・本部朝勇ら。唐手十訓を記す。
1852年		昭霊流祖の東恩納寛量出生 (1852~1915)、門下生には許田重興・剛柔流祖の宮城長順・城間垣貴・遠山寛賢・摩文仁賢和ら。唐手修行のため中国へわたる (1872~1887)。 那覇に沖縄で初めての唐手術道場を開設 (1889)。
1868年	明治元	松涛館流祖の船越義珍 (旧姓:富名腰) 出生 (1868~1957)、流祖の松村宋棍の孫門下生。門下生は船越義蒙、孫門下生には戸川幸夫・林 義明・植村和堂ら。 「琉球拳法唐手」出版。
1870年	明治 3	本部朝基出生 (1870~1941)、糸洲安恒の門下生。門下生には本部流祖の本部朝正・小西康裕・空真流祖の上島三之助・日本拳法祖の山田辰男・千才強直ら。
1871年	明治 4	磯貝一出生 (1871~1947)

空手道学の略史と IT による手技術と急所の相関モデル（沢、摩文仁、樋口、長田）

1877年	明治10	上地完文出生（1877～1948）、中国福建省出身の周 子和の門下生。門下生には上原三郎・上地流祖の上地完英・厚木一夫・山城可多・友寄隆優・島袋夏吉・内間登・崎山秀永ら。唐手修行のため中国へわたる（1904～1911）。
1885年	明治18	小林流祖の地花朝信出生（1885～1969）、門下生には空真流祖の上島三之助・新垣安吉。
1886年	明治19	首里手の徳田安文出生（1886）。
1887年	明治20	那覇手の許田重発出生（1887～1968）、許田重興の門下生。門下生は伊良波長幸。
1888年	明治21	剛柔流祖の宮城長順出生（1888～1953）、昭霊流祖の東恩納寛量の門下生。門下生には安礼間嘉栄・友寄喜栄・崎山達徳・八木明德・仲井真元楷・田崎原手・屋宣必英・剛柔館の山口剛玄ら。唐手修行のため中国へわたる（1904～1906年）。「唐手道概説」出版。秀道館の遠山寛賢出生（1888～1966）、門下生には島袋幸介・渡辺憲一・泊親会の伊藤幹之・樽崎達夫・尹曦炳ら。
1889年	明治22	東恩納寛量、那覇に沖縄で初めての唐手術道場を開設（1889年）。糸東流祖の摩文仁賢和出生（1889～1952）、糸洲安恒の門下生。門下生には小西康裕・賢友流祖の友寄隆正・聖心会の国場幸盛・糸洲会の坂上隆祥・大和流の関博・日本拳法の沢山勝・辻川禎親・摩文仁賢栄・摩文仁賢三・海保薫・谷派糸東流の谷長次郎・崎尾健・岩田万歳ら。摩文仁賢和・仲曾根源和共著「攻防拳法空手道入門」出版。首里手の大城朝恕出生（1889～1930）、門下生は研修会の金城裕。
1890年	明治23	首里手の城間真繁出生（1890～1954）、門下生は錬武会の玉得博康。
1892年	明治25	和道流祖の大塚博紀出生（1892）、中山辰三郎の門下生。門下生には和道会の大島仁・坊秀男ら。
1893年	明治26	良武会・自然流の小西康裕出生（1893）、竹内親久と会気道の植芝盛平の門下生。門下生は稲垣五兵衛。
1895年	明治28	大日本武徳会創立（会長・渡辺千秋）、本部を京都に置く。武道家優遇策として「教士」「練士」「範士」の称号を設定。
1896年	明治29	首里手の平 信賢出生（1896～1970）、屋比久孟伝の門下生。門下生は唯心会の井上元勝。
1897年	明治30	沖縄県立第一中学校、那覇市立商業高校、沖縄師範学校に唐手部設置。
1898年	明治31	剛柔流の比嘉世幸出生（1898～1966）。剛柔流祖の宮城長順の門下生。門下生は泉川寛喜。
1899年	明治32	首里手の新垣安吉出生（1899）。

空手道学の略史と IT による手技術と急所の相関モデル (沢、摩文仁、樋口、長田)

1901年	明治34	沖縄県立第一中学校、沖縄師範学校にて唐手が正科として採用。「トゥーディ:唐手の沖縄方言」呼称も「カラテ」と改称され「空手」表記。
1902年	明治35	宮城長順、東恩納寛量道場入門。
1904年	明治37	上地完文 (1877~1948年)、唐手修行のため中国へわたる (1894~1910)。 糸洲安恒 (1832~1916年)、「平安の型」創作。県立中学で空手指導。 宮城長順、唐手修行のため中国へ留学。 屋部憲通 (1866~1937年)、師範学校で空手指導。
1905年	明治38	慶応大学・松柔館の小幡功出生 (1905~1976)、中野寅蔵の門下生。門下生には山本孝信。
1906年	明治39	練武会の玉得博康出生 (1906)。 剛柔館の山口剛玄出生 (1906)、剛柔館(流)祖の宮城長順の門下生。門下生には立命館大の与儀実栄・森山泰治・曹寧柱・打場憲造・木崎友晴・宇治田省三・多田正剛ら。
1907年	明治40	松林流祖の長嶺将真出生 (1907)、本部朝基と新垣安吉の門下生。門下生には島袋夏吉・喜屋武真栄・久志助恵ら。 賢友流祖の友寄隆正 (我那覇泊里主時代第一尚王統系である父隆光の三男) 出生 (1906~1977)。宮城長順・摩文仁賢和・上原三郎の門下生。門下生は、関西大の舟橋進・岡本禎次郎・明地東三、立命館大の川村優、近畿大の渡辺勝・中野忠勇・高丸春治・高橋義孝・金城重克ら。
1910年	明治43	剛柔流の八木明德出生 (1910)、剛柔館祖の宮城長順の門下生。門下生は玉城佑俊。 小林流の比嘉祐直出生 (1910)、名嘉真朝増の門下生。門下生は仲村良雄。
1911年	明治44	上地流祖の上地完英出生 (1911~1991)、上地完文の門下生。門下生は糸数盛喜。
1912年	大正 1	大正の初期、摩文仁賢和 (1889~1953)・本部朝基 (1870~1941)・城間真繁・大城朝恕 (1888~1934)・徳村政澄・石川逢行・屋比久孟伝 (1878~1941) 等の多数の同土が公開演武で紹介。 日本空手協会の高木正朝出生 (1912)、吉田基雄と針宮幸雄の門下生。門下生は中山正敏。
1913年	大正 2	日本空手協会の中山正敏出生 (1913)、高木正朝の門下生。門下生は宮田実。
1915年	大正 4	糸洲会の坂上隆祥出生 (1915)、摩文仁賢和の門下生。門下生は島本恒雄。
1916年	大正 5	富名腰義珍 (改名:船越義珍) (1868~1957)、京都武徳殿にて空手演武の初公開。船越義珍、喜屋武朝徳、摩文仁賢和、宮城長順は、慶応・早稲田大学を始め多くの大学や組織でも空手普及。その活動が認められ「沖縄の空手」から「世界の空手」に成長。

空手道の略史と IT による手技術と急所の相関モデル (沢、摩文仁、樋口、長田)

1918年	大正 7	摩文仁賢栄 (摩文仁賢和の長男) 出生 (1918)。 研修会の金城裕出生 (1918)、大城朝恕の門下生。門下生には土屋秀男・藤本貞男・仲村孝・渡辺貞夫ら。
1921年	大正10	屋部憲通、皇太子殿下を迎え首里城で生徒の演武披露。助手は船越義珍 (観空) と儀間真謹 (内歩進) がつとめる。富名腰義珍が船越に改姓。
1922年	大正11	文部省 (現・文部科学省) 主催第 1 回体育展覧会開催 (東京)、日本全土や世界へ波紋を広げる最初の投石。 金城三郎の案内で富名腰 (改姓: 船越) 義珍、儀間真謹空手演武。両者は、加納治五郎の招待を受け、下富坂道場で船越は「観空大」を儀間は「ナイファンチン」を演武。 船越は、県人学生寮「明生塾」に住み込み、柔術の高段者に唐手術を指導 (下富坂道場=講道館)。 船越義珍・「琉球拳法、唐手」(武俠士) 出版。
1924年	大正13	船越義珍、慶應義塾大学にて空手指導。慶應義塾大学 唐手研究会発足 (粕谷真洋)。(「空手研究」には、体育会空手部となっている。また、空手部長は粕谷真洋教授)。
1925年	大正14	東京大学、唐手研究会発足 (松田勝一)。
1926年	大正15	上地実文 (1877~1948)、和歌山市に道場開設。 賢友流祖の友寄隆正 (1906~1977)、上原三郎入門。
1927年	昭和 2	摩文仁賢三 (摩文仁賢和の子息) 出生 (1927)、日本空手道会会長・糸東流宗家。J M Fraguas 著「Karate Master」を Unique 社に掲載。 日本空手道協会の金澤弘和 (1927)、国際松濤館空手道連盟会長。東洋大学、唐手研究会設立 (二宮英雄)。
1928年	昭和 3	摩文仁賢和上京、宮城長順 上阪。
1929年	昭和 4	摩文仁賢和、大阪市西成区鶴見橋と港区市岡に道場開設、糸洲系と東恩納系の型を指導。 立命館大学、唐手研究会発足 (山口剛玄)。
1930年	昭和 5	拓殖大学、唐手術研究会発足 (針宮幸雄)。
1932年	昭和 7	宮城長順・「唐手道概説」出版。関西大学、唐手研究会発足 (野口宏他)。
1933年	昭和 8	大日本武徳会、日本の武術として唐手を承認。早稲田大学、唐手研究会発足。 摩文仁賢和、水害のため此花区・福島区・西成区から鶴見区に道場を移動。



空手道学の略史と IT による手技術と急所の相関モデル (沢、摩文仁、樋口、長田)

1934年	昭和9	摩文仁賢和、関西大学(空手部1930年5月設置)だけではなく同時期に近畿大学、他関西の各大学で空手指導。大阪市都島区高倉町「養秀館」道場設立。 現「和道会」は大日本空手振興倶楽部を創設。 宮城長順、ハワイにて唐手指指導。
1935年	昭和10	船越義珍によって、「唐」の字が「空」へと改め。次第に沖縄の空手は日本全土に浸透し、技術的差異、伝承継承によって、細分化の過程で流派名が必要となってきた。 最初に流派名を名乗ったのは、中国南派拳法の影響を受けた那覇手の流れを汲む宮城長順が創始した「剛柔流」である。これを皮切りに、次々と流派名を名乗り、4つの大流派を特に「四大流派」と呼ぶ。 ①「剛柔流」: 宮城長順(那覇手出身)、拳法書「武備志」に拳法大要八句の「法剛柔吞吐」から。 ②「松涛館流」: 船越義珍(首里手出身)、義珍の書号「松涛」を冠したその名から「松涛館」を設立。 ③「糸東流」: 摩文仁賢和(琉球唐手三系統を学ぶ)、糸洲、東恩納の二人の頭名字から命名。 ④「和道流」: 大塚博紀、空手と柔術の長所を取り入れ、船越義珍に学び、本部朝基や宮城長順とも交流。 賢友流祖の友寄隆正は大阪市城東区今福にて、心意館賢友流道場開設。 東京農業大学、唐手研究会発足。
1937年	昭和12	賢友流二代目宗家の友寄隆一郎出生(1937)、関西大学卒、大阪市空手道連盟会長・大阪府空手道会連盟理事長。 船越義珍、「空手道教範」出版。立教大学、唐手研究会発足。
1938年	昭和13	摩文仁賢和・仲曾根源和共著「攻防拳法空手道入門」出版。 船越義珍、空手研究会本部長。 工学博士の沢 勲(1938)、大阪経済法科大学理事・学長補佐・教授。
1939年	昭和14	糸東流空手道と命名(摩文仁賢和)。糸東流とは、首里手の権威者(糸洲安垣)の「糸」と那覇手の開祖(東恩納寛量)の「東」の頭文字を取り名付けた。 賢友流空手道を創始(友寄隆正)。賢友流とは、摩文仁賢和の「賢」と友寄隆正「友」を組み合わせた。 大日本武徳会本部へ「糸東流」登録。松涛館道場落成。和道会発足(大塚博紀)。摩文仁賢和が「大日本空手道会」を発足し、後に「日本空手道会」に改称。
1941年	昭和16	医学博士の樋口豊治(1941)、大阪市立大学大学院医学研究科講師。
1942年	昭和17	摩文仁賢和、東洋大学空手師範後、大日本空手道会設立。

空手道の略史と IT による手技術と急所の相関モデル (沢、摩文仁、樋口、長田)

1945年	昭和20	全日本空手道連盟錬武会が結成、韓武館道場。 摩文仁賢三、糸東流空手道「指南道場」開設、日本空手道会総本部設立。
1948年	昭和23	(社) 日本空手協会結成。船越義珍最高師範就任。
1949年	昭和24	船越義珍系、日本空手協会結成 (西郷吉之助)。 大阪市西成区にある賢友流空手道場を糸東流空手道場に委ねる。 長田眞男 (1949)、(社)全日本空手道連盟、奈良県空手道連盟理事・ (財) 日本体育協会公認空手道指導者。
1950年	昭和25	全日本学生空手道連盟結成 (会長・大浜信泉)。 日本空手道剛柔会が発足。現在は日本空手道連盟剛柔会へと改組。
1951年	昭和26	大阪市城東区今福西にある道場を賢友流空手道本部道場とする。
1952年	昭和27	賢友流空手道の友寄隆正は、関西空手道連盟の会長に就任。
1955年	昭和30	(社) 日本空手協会設立 (会長・西郷吉之助)。
1957年	昭和32	第一回全日本学生空手道選手権大会開催 (優勝、三木 周)。
1958年	昭和33	摩文仁賢三、関西大学工学部空手道部師範。
1959年	昭和34	第三回全日本学生空手道選手権大会開催 (優勝、友寄隆一郎)。
1960年	昭和35	全自衛隊空手道連盟・西日本実業団空手道連盟発足。
1962年	昭和37	全日本空手道学生連盟再編成。
1963年	昭和38	全日本学生空手道連盟の機関誌「学空連」創刊。
1964年	昭和39	全日本空手道連盟 (Federation, ALL, JAPAN, KARATEDO, Organization : (F.A.J.K.O) 結成 (会長は大浜信泉)。東日本実業団空手道連盟発足。 全日本学生空手道連盟、全日本実業団空手道連盟等の諸流派をもって創立。
1965年	昭和40	第一回学連日米親善学生空手道大会 (優勝、福井功)。
1967年	昭和42	現「和道会」は大日本空手振興倶楽部を創設 (1934) から大日本空手振武会 (1938) 名称を変更、現在に至る。
1968年	昭和43	全日本空手道連盟改組 (会長は笹川良一)。 全日本実業団空手道連盟などの諸流派をもって創立。
1969年	昭和44	(財) 全日本空手道連盟発足 (会長は笹川良一)。 第一回 全日本空手道選手権大会開催。(日本武道館、優勝 飯田紀彦) 日本(沖縄)固有の武術として出生した「唐手」は、武道とスポーツの両面性をもつ「空手道」として発展。
1970年	昭和45	第一回 世界空手道選手権大会開催 (日本武道館、優勝 和田光二)。 第一回学連ヨーロッパ 親善大会。 世界空手道連合 (World Karate Federation : WKF) が結成。 東西日本実業団空手道連盟発足。

1972年	昭和47	全空連は日本体育協会に加盟。
1973年	昭和48	第一回 アジア太平洋空手道選手権大会開催 (シンガポール、優勝早川憲政)。
1976年	昭和51	日本傳剛柔流空手道阪南本部設立。
1981年	昭和56	国民体育大会 (滋賀大会) に正式種目として採用され、組手とともに、空手の伝統的な稽古法である「型」の試合も行われる。判定基準を明確にした「指定型」の登場で競技人口を増大。
1982年	昭和57	全日本実業団空手道連盟発足。
1993年	平成 5	世界糸東流空手道連盟 (WSKF) が結成。第一回糸東流空手道選手権大会開催 (日本武道館)。
2002年	平成14	日本傳剛柔流空手道を日本傳剛柔流空手道巧志会に名称を変更。

### 3 上肢(手技)の組織とは

#### 3.1 前腕・手掌の用語

Table 2 前腕と手掌の50音順用語 (The Japanese-syllabary Terminology of Forearm and Palm of Hand)

	日本語・Japanese			英語	韓国語
	漢字	読み	ローマ字	English	한국어 Korean
1	一本拳	いっぽん けん	Ippon Ken	One Knuckle Fist	일본권, 일지권
2	一本爪先	いっぽん つめさき	Ippon Tsumesaki	Single Spear Finger	한손끝
3	後ろ猿臂	うしろ えんぴ	Ushiro Empi	Elbow Attack to Rear	뒤 원비
4	後ろ手首	うしろ てくび	Ushiro Tekubi	Back Wrist	등팔목
5	内横拳	うち よこ けん	Uchi Yoko Ken	Inside Horizontal Fist	내횡 주먹

空手道の略史と IT による手技術と急所の相関モデル (沢、摩文仁、樋口、長田)

6	腕	うで	Ude	Arm	팔머릿
7	腕馴	うで なれ	Ude Nare	Back Side of Forearm	팔머릿
8	裏拳	うら けん	Ura Ken	Back Fist	등주먹, 이권
9	裏手刀	うら しゅとう	Ura Shuto	Back Hand Sword	등 수도
10	猿臂(肘)	えんび	Empi	Elbow	원비
11	親指一本拳	おやゆび いっぽん けん	Oyayubi Ippon Ken	One Thumb Fist	엄지손 일본권
12	外腕	がい わん	Gai Wan	Outside Forearm	외완
13	外横拳	がいおう けん、 そと よこ けん	Gaiou Ken、 Soto Yoko Ken	Outside Horizontal Fist	외횡 주먹
14	鶴刀	かく とう	Kaku Tou	Bent Wrist	학도
15	掛手	かけて	Kakete	Hooking Hand	괘수
16	基節骨	きせつ こつ	Kisetsu Kotsu	Proximal Phalanx	기절골
17	逆手刀	ぎゃく しゅとう	Gyaku Shutou	Reverse Knife Hand	손날등
18	熊手	くまで	Kumate	Bear Hand, Rake	웅수, 곰손
19	鶏口拳	けいこう けん	Keikou Ken	Cock-mouth Fist	계구권
20	鶏頭拳	けいとう けん	Keitou Ken	Chicken Head Wrist	계두권
21	月状骨	げつじょう こつ	Getsujyou Kotsu	Lunate Bone	월상골
22	拳槌(鉄槌)	けんつい	Kentsui	Hammer Fist	권추, 매주먹
23	狐拳	こ けん	Ko Ken	Fox Fist	호권

空手道学の略史と IT による手技術と急所の相関モデル (沢、摩文仁、樋口、長田)

24	弧手	こて	Kote	Arc Hand	아금손
25	小手	こて	Kote	Forearm	손끝
26	拳	こぶし	Kobushi	Fist	주먹, 권
27	三角骨	さんかく こつ	Sankaku Kotsu	Triangular Bone	삼각골
28	指骨	し こつ	Shi Kotsu	Digital Phalanx	지골
29	指間球	しかん きゅう	Shikan Kyuu	Metacarpophalangeal Bulb	지간구
30	指鉄	しきょう	Shikyou	Finger Scissors	지협, 손 바위
31	指尖球	しせん きゅう	Shisen Kyuu	White Nail Bulb	지침구
32	尺骨	しゃく こつ	Shaku Kotsu	Ulna	척골
33	手甲	しゅこう	Shukou	Back of Hand	수갑
34	舟状骨	しゅうじょう こつ	Shujyou Kotsu	Scaphoid Bone	주상골
35	手根骨	しゅこん こつ	Shukon Kotsu	Carpal Bone, Corpus	수근골
36	手刀	しゅとう	Shutou	Knife Hand	수도, 손날
37	手峯	しゅほう	Shuhou	Hand Peak	수봉
38	手腕	しゅわん	Shuwan	Skill	수완
39	小拳頭	しょう けん とう	Shou Ken Tou	Little Fist Head	소권두
40	上腕	じょう わん	Jyo Wan	Upper Arm	상완
41	上腕骨	じょう わん こつ	Jyo Wan Kotsu	Arm Humerus	상완골

空手道の略史と IT による手技術と急所の相関モデル (沢、摩文仁、樋口、長田)

42	上肢	じょうし	Jyoshi	Upper Extremity	상지
43	小指球	しょうし きゅう	Shoushi Kyuu	Hypothenar, Ball Antiphony	소지구
44	小菱形骨	しょう りょうけい こつ	Syou Ryokei Kotsu	Trapezoid Bone	소능형골
45	掌底	しょうてい	Shoutei	Palm Bottom, Palm Heel	장저
46	水拳	すい けん	Sui Ken	Water-fist	물 주먹
47	水平拳(背刀)	すいへい けん	Suihei Ken	Level Fist	수평권
48	正拳	せい けん	Sei Ken	Fore Fist	정권
49	前腕	ぜん わん	Zen Wan	Forearm	완면
50	外尺沢	そと しゃく たく	Soto Shaku Taku	Back of the Wrist	외 손목
51	外腕	そとうで	Sotoude	Outer Wrist	바깥 팔목
52	大拳頭	だい けん とう	Dai Ken Tou	Greater Fist Head	대권두
53	大菱形骨	だい りょうけい こつ	Dai Ryokei Kotsu	Trapezium Bone	대능형골
54	中高拳	ちゅうこう けん	Chukou Ken	Center-High Fist	중고권, 중지권
55	中手骨	ちゅうしゅ こつ	Chushu Kotsu	Metacarpal Bone	중수골
56	中節骨	ちゅうせつ こつ	Chusetsu Kotsu	Middle Phalanx	중절골
57	鎮手	ちんて	Chinte	Chine	진수
58	手首	て くび	Te Kubi	Wrist	손목
59	手の甲	て の こう	Te no Kou	Dorsum of Hand	손등

空手道学の略史と IT による手技術と急所の相関モデル (沢、摩文仁、樋口、長田)

60	手のヒラ	ての ヒラ	Te no Hira	Palm	손바닥, 수장
61	手の指	て の ゆび	Te no Yubi	Finger	손가락
62	手技	て わざ	Te Waza	Hand Techniques	수, 손
63	底拳	てい けん	Tei Ken	Palm Fist	바탕손
64	底手首	てい てくび	Tei Tekubi	Under Side Wrist	밑팔목
65	手首の関節	てくび の かんせつ	Tekubi no Kansetsu	Wrist Joint	손목 관절
66	鉄槌	てっつい	Tettsui	Bottom Fist, Iron Hammer	철추
67	橈骨	とう こつ	Tou Kotsu	Radius	요골
68	豆状骨	とうじょう こつ	Toujyo Kotsu	Pisiform Bone	두상골
69	刀峰	とうほう	Touhou	Sword Ridge	도봉
70	内尺沢	ない しゃく たく	Nai Shaku Taku	Inner Wrist	안손목, 안팔목
71	内腕	ない わん	Nai Wan	Inner Forearm	내완
72	内横拳	ないおう けん	Naiou Ken	Inside Horizontal Fist	내옆 주먹
73	中立て一本拳	なかたて いっぽん けん	Nakatate Ippon Ken	Middle Finger Knuckle Fist	중입 일본권
74	中指一本拳	なかゆび いっぽん けん	Nakayubi Ippon Ken	One Middle Finger Fist	중지 일본권
75	二本貫手	にほん ぬきて	Nihon Nukite	Two Finger Spear Hand	이본 관수
76	抜き拳	ぬき けん	Nuki Ken	Pincers Fist	집게주먹
77	貫手	ぬきて	Nukite	Spear Hand	관수

空手道学の略史と IT による手技術と急所の相関モデル (沢、摩文仁、樋口、長田)

78	貫手当て	ぬきて あて	Nukite Ate	Spear Hand Strust	관수 찌르기
79	背腕	はい わん	Hai Wan	Back Arm	배완
80	背手	はいしゅ	Haisyu	Back Hand	배수
81	背刀	はいとう	Haitou	Ridge Hand	배도, 역수도
82	鋏爪先	はさみ つまさき	Hasami Tsumasaki	Scissors Spear Finger	바위손끝
83	肘 (エンピ)	ひじ (エンピ)	Hiji (Empi)	Elbow	팔꿈치
84	平鋏	ひら きよう	Hira Kyou	Flat Scissors	평협
85	平拳	ひら けん	Hira Ken	Fore Knuckle Fist	평권
86	振り拳	ふり けん	Furi Ken	Way Fist	진 주먹
87	平拳	へい けん	Hei Ken	Flat Fist	평권, 편주먹
88	母指球	ぼし きゅう	Boshi Kyuu	Fist Thenar	모지구
89	末節骨	まっせつ こつ	Massetsu Kotsu	Distal Phalanx	말절골
90	双手受け	もろて うけ	Morote Uke	Both Hands	양손 막기
91	有鉤骨	ゆうこう こつ	Yukou Kotsu	Hamate Bone	유구골
92	有頭骨	ゆうとう こつ	Yutou Kotsu	Capitate Bone	유두골
93	指	ゆび	Yubi	Finger	손
94	横猿臂	よこ えんぴ	Yoko Empi	Side Elbow	옆 원비
95	四本拳	よんほん けん	Yonhon Ken	Four Fists	사본권



96	四本貫手	よんほんぬきて	Yonhon Nukite	Spear Hand	사본 관수
97	腕刀	わんとう	Wantou	Wrist Sword	완도, 팔

### 3.2 a 右手の骨格 (背側面) の写真・用語・解説

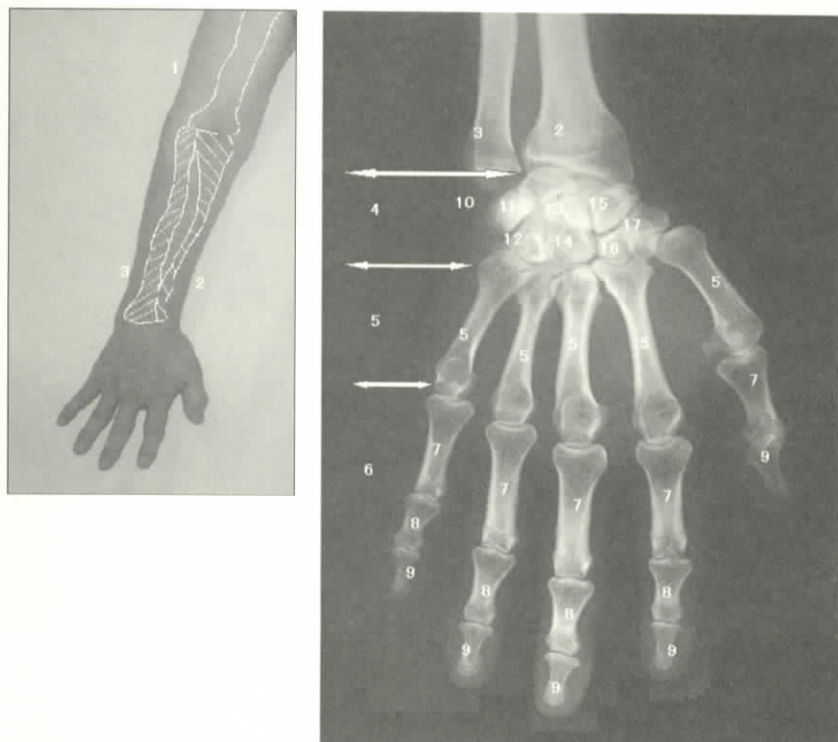


Fig. 1 右手の骨格 (背側面) の写真 (The Photograph of Skeleton (Back Aspect) of Right Hand)

### 3.2 b 右手の骨格 (背側面) の用語解説

日本語・Japanese			英語	韓国語	
漢字	読み	ローマ字	English	한국어 Korean	
1	上腕骨	じょうわんこつ	Jyo Wan Kotsu	Arm Humerus	상완골

上腕にある円柱状の長管骨。上腕の骨頭は肩甲骨との間で肩関節をつくる。中央部は円柱状であるが上下の両端はふくらむ。下端には上腕滑車と上腕骨小頭があり、前腕骨と関節をつくる。

2	橈骨	とうこつ	Tou Kotsu	Radius	요골
---	----	------	-----------	--------	----

前腕の2骨の1つ、尺骨の外側にある細長い骨。尺骨と対をなす。上端は肘関節の形成にあたるが、下端の方が太く、下端、手根骨との間に手首関節との間に手首の関節 (橈骨手首関節) をつくる。

3	尺骨	しゃくこつ	Shaku Kotsu	Ulna	척골
---	----	-------	-------------	------	----

前腕の小指側にある長管骨で中央は三角柱状を示す。下端が細長く、上端は肘頭となって突出した上腕骨との間で関節をつくる。長さを測る基準の名が生まれた。親指側の橈骨と対となす。

4	手根骨	しゅこんこつ	Shukon Kotsu	Carpal Bone, Corpus	수근골
---	-----	--------	--------------	------------------------	-----

手首にある骨で8個の短骨が4個づつ2列に配列し、靭帯で固く連結されている。前腕骨と中手骨の間に位置する。有頭骨・舟状骨・小菱形骨の間に位置する骨。舟状骨と連結している。

5	中手骨	ちゅうしゅこつ	Chushu Kotsu	Metacarpal Bone	중수골
---	-----	---------	--------------	-----------------	-----

手掌にある5本の長管骨でこれらに5列の指骨が連がる。

6	指骨	しこつ	Shi Kotsu	Digital Phalanx	지골
---	----	-----	-----------	-----------------	----

中手骨に連結している末節骨・基節骨・中節骨の含めた指部分の骨。

7	基節骨	きせつこつ	Kisetsu Kotsu	Proximal Phalanx	기절골
---	-----	-------	---------------	------------------	-----

基節骨は、中手骨と中節骨の間にある骨をいう。拇指では、中手骨と中節骨の間。

8	中節骨	ちゅうせつこつ	Chusetsu Kotsu	Middle Phalanx	중절골
---	-----	---------	----------------	----------------	-----

中節骨は、基節骨と末節骨の間にある骨。拇指にはない。

空手道学の略史と IT による手技術と急所の相関モデル (沢、摩文仁、樋口、長田)

9	末節骨	まっせつこつ	Massetsu Kotsu	Distal Phalanx	말절골
---	-----	--------	----------------	----------------	-----

末節骨は、中手骨から基節骨・中節骨(拇指にはない)に連続する末端の骨をいう。

10	豆状骨	とうじょうこつ	Toujyo Kotsu	Pisiform Bone	두상골
----	-----	---------	--------------	---------------	-----

三角骨の掌側に位置する骨。

11	三角骨	さんかくこつ	Sankaku Kotsu	Triangular Bone	삼각골
----	-----	--------	---------------	-----------------	-----

有鉤骨と月状骨の間に位置する骨で、豆状骨の背側に位置する。

12	有鉤骨	ゆうこうこつ	Yukou Kotsu	Hamate Bone	유구골
----	-----	--------	-------------	-------------	-----

第四・五中手骨、有頭骨、三角骨の間に位置する骨。

13	月状骨	げつじょうこつ	Getsujyou Kotsu	Lunate Bone	월상골
----	-----	---------	-----------------	-------------	-----

舟状骨と三角骨の間に位置する骨。

14	有頭骨	ゆうとうこつ	Yutou Kotsu	Capitate Bone	유두골
----	-----	--------	-------------	---------------	-----

第三中手骨と月状骨の間にあり、手根骨の中央に位置する骨。

15	舟状骨	しゅうじょうこつ	Shujyou Kotsu	Scaphoid Bone	주상골
----	-----	----------	---------------	---------------	-----

有状骨・大・小菱形骨の間に位置する骨。

16	小菱形骨	しょうりょうけいこつ	Syou Ryohei Kotsu	Trapezoid Bone	소능형골
----	------	------------	-------------------	----------------	------

第二中手骨と舟状骨および大菱形骨と有頭骨の間に位置する骨。

17	大菱形骨	だいらょうけいこつ	Dai Ryohei Kotsu	Trapezium Bone	대능형골
----	------	-----------	------------------	----------------	------

第一中手骨と舟状骨の間に位置する骨。

3.3 a 右前腕と手 (掌側面) の写真・用語・解説

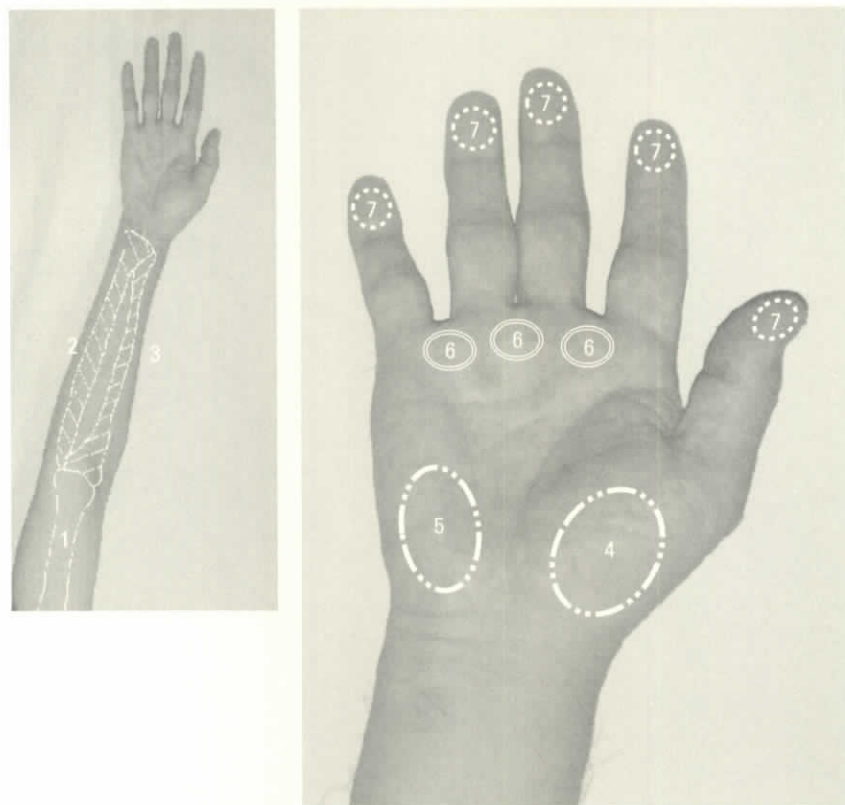


Fig. 2 右前腕と手 (掌側面) の写真 (The Photograph of the Right Forearm and Hand (the Palm Aspect))

### 3.3 b 右前腕と手 (掌側面) の用語解説

	日本語・Japanese			英語	韓国語
	漢字	読み	ローマ字	English	한국어 Korean
1	上腕	じょう わん	Jyo Wan	Upper Arm	상완

上腕の中軸にある長い腕。上端は内側上下に球状の上腕頭骨を出して、肩甲骨外側角との間に肩関節をつくり、下端は2つの関節面に分かれて尺骨および橈骨との間にある。

2	橈骨	とう こつ	Tou Kotsu	Radius	요골
---	----	-------	-----------	--------	----

前腕の2骨の1つ、尺骨の外側にある細長い骨。尺骨と対をなす。上端は肘関節の形成にあたるが、下部の方が太く、下端、手根骨との間に手首関節との間に手首の関節 (橈骨手首関節) をつくる。

3	尺骨	しゃくこつ	Shaku Kotsu	Ulna	척골
---	----	-------	-------------	------	----

前腕の小指側にある細長い骨。親指側の橈骨と対となす。下部が細長く、上部が太くて上腕骨との連結に主役を果たす。上段後面は突出して肘頭と呼ばれる。長さを測る基準の名が生まれた。

4	母指球	ぼし きゅう	Boshi Kyuu	Fist Thenar	모지구
---	-----	--------	------------	-------------	-----

西洋の手相学で言われる生命線の外側にあり、親指に連結する舟状骨・小菱形骨・大菱形骨を含む部分。

5	小指球	しょうし きゅう	Shoshi Kyuu	Hypothenar, Ball Antiphonyary	소지구
---	-----	----------	-------------	----------------------------------	-----

西洋の手相学で言われる健康・成功線の外側にあり、小指に連結する有鉤骨・月状骨を含む部分。

6	指間球	しかん きゅう	Shikan Kyuu	Metacarpophalangeal Bulb	지간구
---	-----	---------	-------------	-----------------------------	-----

東洋および西洋の手相学で言われる翼・離・坤および金星帯という。有鉤骨・有頭骨・小菱形骨を含む部分。

7	指尖球	しせん きゅう	Shisen Kyuu	White Nail Bulb	지첨구
---	-----	---------	-------------	-----------------	-----

東洋の手相学で言われる親指(先祖)・人差し指(父)・中指(母)・薬指(妻)・小指(子)といい、中節骨を含む部分。

3.4 a 拳部 (攻撃技と防御技) の写真・用語・解説

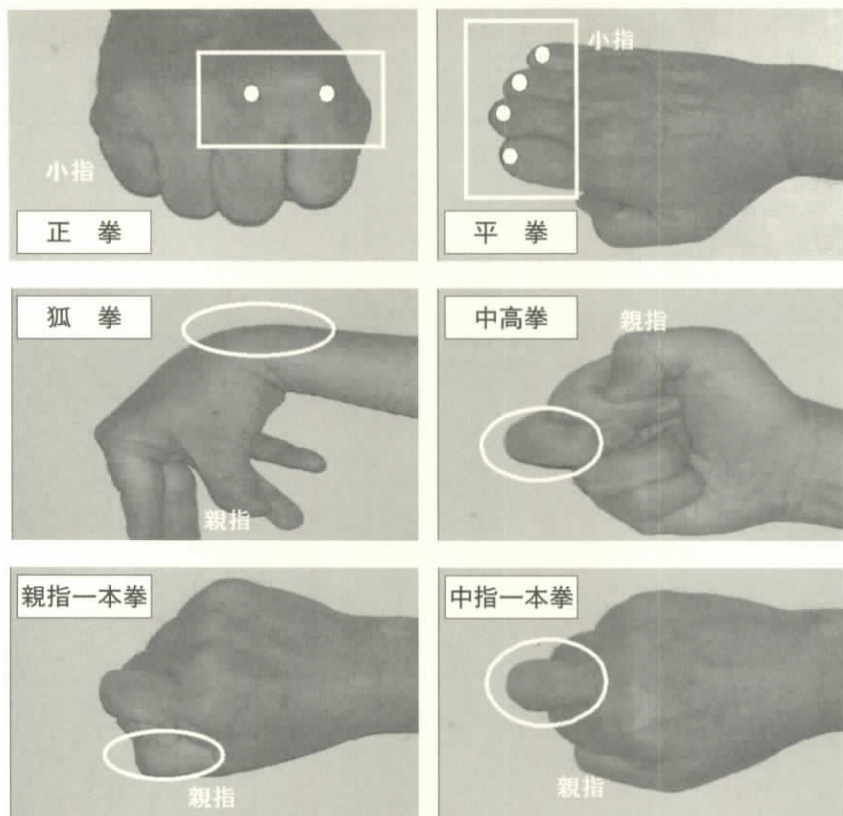


Fig. 3 拳部 (攻撃面と防御面) の写真 (The Photograph of the Fist Department (the Attack Fase and Defense Fase))

2.4 b 拳部 (攻撃技と防御技) の用語解説

1	正拳	せいけん	Sei Ken	Fore Fist	정권
---	----	------	---------	-----------	----

[解説] 正拳とは空手の中で最も多く使われる技である。当てる所は、中指と人差し指のつけ根の関節部分である拳頭 (基関節) を中心とする基節骨である。

[手順] ①手を広げること、②小指から薬指を握ること、③中指と人差し指を握ること、④親指でしっかり押えることである。ここで、腕と手首は一直線にして拳頭に集中することである。腕と甲が一直線にならないと手首がねんど (捻挫) する可能性が大きく、事故が起こりやすい。そのため、徹底的に鍛練する必要がある。

[関連用語] 正拳上段突き、正拳下段突き、正拳直突き。

空手道学の略史と IT による手技術と急所の相関モデル (沢、摩文仁、樋口、長田)

[攻撃目標] [上段] 眉間・鳥兎・側顎・人中・下顎・コメカミ・側頭。[中段] 臍下丹田・腹部・浮動肋骨・内尺沢・内手首・腎臓・肩甲骨・頸椎・水月・溝落。[下段] 下段ではヒカガミ・腓高・膝下への攻撃に重要な技である。

2	平拳	へいけん	Hei Ken	Flat Fist	평권, 편주먹
---	----	------	---------	-----------	---------

[解説] 平拳とは指先を指のつけ根につけて攻撃する技である。

[手順] ①手を広げること、②親指以外の4本指を軽くそろえること、③親指は人差し指の側面に折り曲げながらしっかりと握ることである。

[関連用語] 平拳突き、平拳受け。

[攻撃目標] [上段] 人中・ほお(頬)・耳・喉・コメカミおよび鼻の下など。[中段] や [下段] には使用しない特徴がある。

3	狐拳	こけん	Ko Ken	Fox Fist	호권
---	----	-----	--------	----------	----

[解説] 狐拳とは手首で攻撃する技である。

[手順] ①手を広げること、②手首の部分を下方に曲げた状態にすること、③親指と小指は手首側にしっかりと折り曲げることである。打つ時には、脇をしっかりと締め、接近戦の場合に有効な技術である。前や横から見ると薬指と中指先は「つらら状態」のように見える。

[攻撃目標] [上段] 主に顔面・顎。[中段] 脇腹・水月部分。[下段] 使用しない特徴がある。

4	中高拳	ちゅうこうけん	Chukou Ken	Center-High Fist	중고권, 중지권
---	-----	---------	------------	------------------	----------

[解説] 中高拳とは中指だけを前に出して中指の関節を当てる状態で攻撃する技である。

[手順] 正拳と同じ要領で握りこむ ①手を広げること、②小指から薬指までの4指を握ること、③中指を突出させながら握ること、④中指以外の指をしっかりと押えることである。中高拳は小さい急所を打つのであり、一本拳と似たような目的の特徴で使用する。

[攻撃目標] [上段] 喉仏・小脳・眉間・鳥兎・人中。[中段] ワキノシタ・腋窩・浮動肋骨・内尺沢・内手首・腎臓・頸椎・水月・溝落・気管。[下段] ヒカガミ・腓高・膝下。

5	親指一本拳	おやゆび いっぽんけん	Oyayubi Ippon Ken	One Thumb Fist	엄지손 일본권
---	-------	-------------	-------------------	----------------	---------

[解説] 親指一本拳とは親指だけを人差し指の横につけて、親指の関節を握る状態で振りながら当てる技である。

[手順] ①手を広げること、②小指から薬指までの4指を握ること、③親指の一本を突出させながら握ること、④親指以外の指をしっかりと押えることである。

[攻撃目標] [上段] コメカミ。[中段] 首筋などの急所。[下段] 使用しない特徴がある。

6	中指一本拳	なかゆび いっぽんけん	Nakayubi Ippon Ken	One Middle Finger Fist	중지 일본권
---	-------	-------------	--------------------	------------------------	--------

[解説] 中指一本拳とは中親だけを前に出して、中指の関節部分を握る状態で振りながら攻撃する技である。

[手順] ①手を広げること、②小指から薬指までの4指をしっかりと握ること、③中指の1本を突出させながら握ること、④中指以外の指をしっかりと押えることである。

[攻撃目標] [上段] コメカミ。[中段] 首筋などの急所。[下段] 使用しない特徴がある。

### 3.5 a 貫手 (攻撃技と防御技) の写真・用語・解説

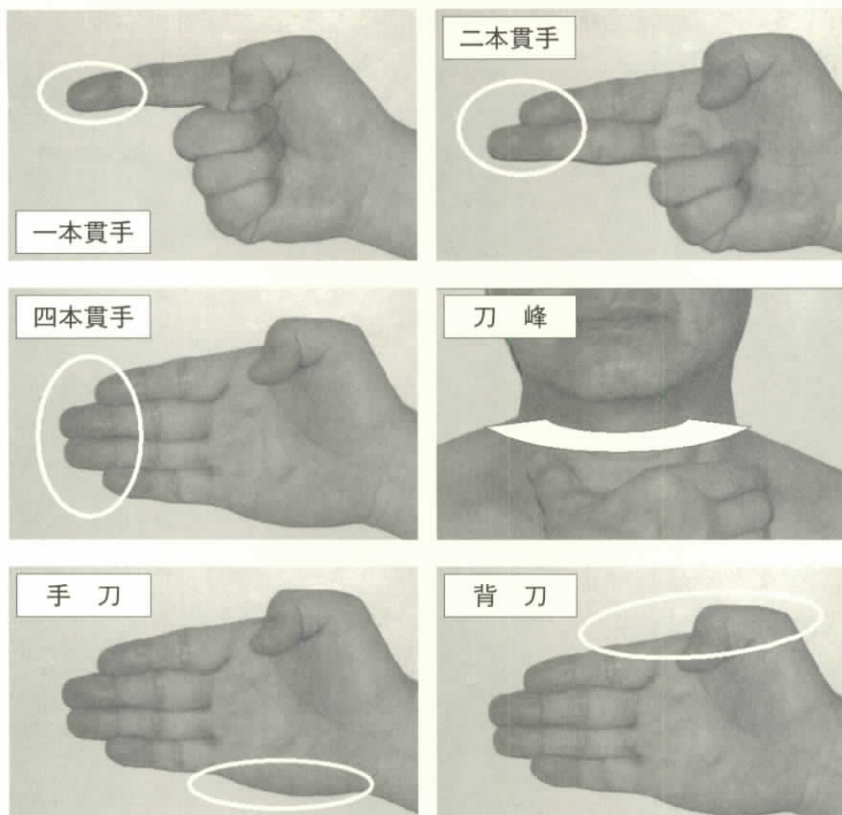


Fig. 4 貫手 (攻撃面と防御面) の写真 (The Photograph of the Spear Hand (the Attack Fase and Defense Fase))

### 3.5 b 貫手 (攻撃技と防御技) の用語解説

1	貫手(一本)	ぬきて	Nukite	Spear Hand	관수
---	--------	-----	--------	------------	----

[解説] 貫手(一本)とは一本貫手(人差し指)ともいい、正拳では棒の先で突くのに対して、一本貫手では「槍の先」で突く状態ともいう。

[手順] 正拳と同じ要領で握りこむ ①手を広げること、②貫手(一本)の人差し指をそのままにして、③他の指先の爪部分を軽く折り曲げること、④曲げた指関節が伸ばした腕と直線状態にならないように注意する。

[攻撃目標] [上段] 眉間・人中・目の急所。[中段] と [下段] には使用しない特徴がある。



2	貫手(二本)	ぬきて	Nukite	Spear Hand	관수
---	--------	-----	--------	------------	----

[解説] 貫手(二本)とは二本貫手(人差し指と中指)もいう。

[手順] ①手を広げること、②貫手(二本)の人差し指と中指をそのままに伸ばして、③小指と薬指の爪部分を軽く折り曲げること、④その上から親指でしっかり押さえる。正拳では棒の先で突くのにに対して、二本貫手では2本の槍の先で突く状態である。

[攻撃目標] [上段] 眉間・目の急所。[中段] と [下段] には使用しない特徴がある。

3	貫手(四本)	ぬきて	Nukite	Spear Hand	관수
---	--------	-----	--------	------------	----

[解説] 貫手(四本)とは四本貫手・親指以外の4本の指ともいう。

[手順] ①手を広げること、②貫手(四本)の指をそのままにして、③親指の爪部分を軽く折り曲げること、④曲げた指関節が伸ばした腕と直線状態にならないように注意する。中指と薬指の先端の長さがそろえるとより強力な武器の槍といえる。

[攻撃目標] [上段] 喉仏・人中。[中段] すいげつ(水月)・溝落・気管。[下段] ヒカガミ・腓高・膝下への攻撃に重要な技である。

4	刀峰	とうほう	Touhou	Sword Ridge	도봉
---	----	------	--------	-------------	----

[解説] 貫手(四本)とは四本貫手・親指以外の4本の指ともいう。

[手順] ①手を広げること、②親指を曲げる、③親指と人差し指の内側を「輪あるいは峰」のような状態にする。刀峰は、喉仏の急所を当てるのが主目的であるため相撲の「のど輪」の技と言われる。

[攻撃目標] [上段] のどぼとけ(喉仏)。[中段] と [下段] には使用しない特徴がある。

5	手刀	しゅとう	Shutou	Knife Hand	수도, 손날
---	----	------	--------	------------	--------

[解説] 手刀とは背刀の反対側で、小指側で当てるのが主目的である。そのためプロレスの「空手チョップ」の技と同様な技であると言われる。

[手順] ①5本の指をそろえて伸ばすこと、②親指の第一関節を折り曲げること、③親指と人差し指とが平行状態にする。④小指の側を下の状態である。

[関連用語] 手刀受け、手刀打ち、手刀顔面打ち。

[攻撃目標] [上段] 側頭。[中段] 鎖骨・脇腹。[下段] 金的・睾丸への攻撃に効果。

6	背刀	はいとう	Haitou	Ridge Hand	배도, 역수도
---	----	------	--------	------------	---------

[解説] 背刀とは手刀の反対側で、親指で当てるのが主目的である。

[手順] ①5本の指をそろえて伸ばすこと、②人さし指と親指の側のつけ根をそのままにして、③つけ根の状態は接近した状態である。親指の折り曲げた関節は使用しない。横状態ある4本の指は、親指と平行状態の手のひらになるため同じように見える特徴がある。

[関連用語] 背刀受け、背刀打ち。

[攻撃目標] [上段] コメカミ・みけん(眉間)。[中段] 首のけい(頸)動脈・腕の急所。[下段] 使用しない特徴がある。

### 3.6 a 手拳 (攻撃技と防御技) の写真・用語・解説

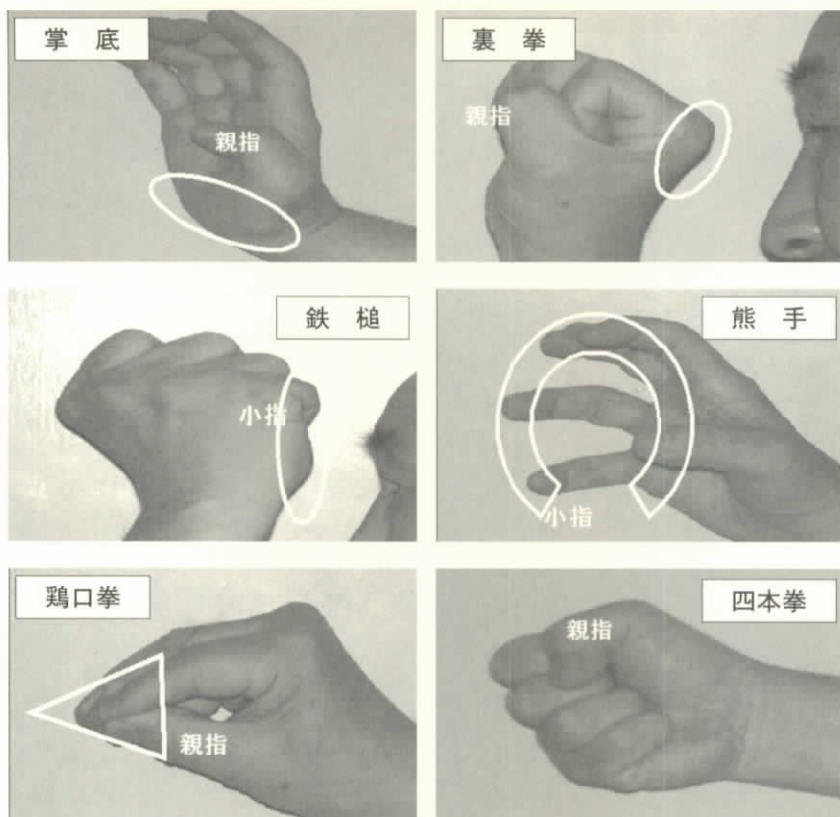


Fig. 5 手拳 (攻撃面と防御面) の写真 (The Photograph of the Hand Fist (the Attack Phase and Defense Phase))

### 3.6 b 手拳 (攻撃技と防御技) の用語解説

1	掌底	しょうてい	Shoutei	Palm Bottom, Palm Heel	장저
---	----	-------	---------	---------------------------	----

[解説] 掌底とは底掌ともいう拳の底部であり、手のひらの下部を当てる目的である。

[手順] ①手を広げること、②親指と中指から小指までの指先が自然体の状態で軽く曲げること、③手のこう (甲) を表にする。

[関連用語] 底掌突き、底掌打ち、底掌受け。

[攻撃目標] [上段] 顔面・あご (顎) への攻撃に重要な技。[中段] と [下段] には使用しない特徴がある。

空手道学の略史と IT による手技術と急所の相関モデル (沢、摩文仁、樋口、長田)

2	裏拳	うら けん	Ura Ken	Back Fist	등주먹, 이권
---	----	-------	---------	-----------	---------

[解説] 腕の肘関節の部分を活用する拳の裏側と親指・中指の基部をより最大限の効果が得られ、肉の厚い部分を当てることである。肘関節の部分を活用して、顔面や脇腹への反撃に有効である。

[手順] ①手を広げること、②親指と中指を曲げる、③手首をしっかりとそらすこと、④第3関節の甲の側の部分を使用する。

[関連用語] 裏拳突き、裏拳打ち、裏拳下突き。

[攻撃目標] [上段] 眉間・烏兔・人中・コメカミ・側頭。[中段] 浮動肋骨・水月・溝落・腎臓・頸椎・肩甲骨・内尺沢・内手首。[下段] ヒカガミ・腓高・膝下への攻撃に重要な技である。

3	鉄槌	てっつい	Tettsui	Bottom Fist, Iron Hammer	철추
---	----	------	---------	-----------------------------	----

[解説] 小指側の肉の厚い部分で攻撃する「金ヅチ」と同じ原理である。鉄槌とは、けんつい(拳槌)またはしゅつい(手槌)ともいう。拳の腹あるいは小指側面の部分で、胴体の反撃に使用する。

[手順] ①手を広げること、②手刀を握った状態のように小指から薬指順に握ること、③中指と人差し指を握ること、④親指でしっかり握り締めることである。

[関連用語] 鉄槌打ち、鉄槌受け。

[攻撃目標] [上段] コメカミ・側頭・頭蓋。[中段] 浮動肋骨・水月・溝落・腎臓・鎖骨・頸椎・気管。[下段] ヒカガミ・腓高・膝下への攻撃に重要な技である。

4	熊手	くまて	Kumate	Bear Hand, Rake	웅수, 곰손
---	----	-----	--------	-----------------	--------

[解説] 顔面状態の不安にするために当てるのが主目的で、顔を攻めながら不安定な体勢にする技と言われる。

[手順] ①指を中間節から広げること、②五本の指を曲げる、③親指と人差し指から小指までの内側を強く押し広げるようにした「半輪あるいは峰状」拳の全面を使用する状態にする。

[攻撃目標] [上段] 下顎・コメカミ・側頭。[中段] 不使用。[中段] ヒカガミ・腓高・膝下への攻撃に重要な技である。

5	鶏口拳	けいこう けん	Keikou Ken	Cock-mouth Fist	계구권
---	-----	---------	------------	-----------------	-----

[解説] 手首を折り曲げ、拇指側の手の根もとを鶏口の状態のように突き出し、スナップを利かせる当てるのが主目的である。

[手順] ①手を広げること、②5本の指を一点に合わせる、③鶏の口のような拳の形にする。

[攻撃目標] [上段] 顔面状態にある鼻と上唇の間に攻撃。[中段] 脇下。[下段] 不使用。

6	四本拳	よんほん けん	Yonhon Ken	Four Fists	사본권
---	-----	---------	------------	------------	-----

[解説] 四本拳は貫手(四本)ともいい。四本拳は、武器で言えば「槍」といえる。

[手順] ①手を広げること、②貫手(4本)の指をそのままにして、③親指を軽く折り曲げる、④曲げた指関節が伸ばした腕と直線状態にならないように注意する。

[攻撃目標] [上段] 眉間・のど(喉)。[中段] 水月・浮動肋骨の急所。[下段] 不使用。

### 3.7 a 腕部（攻撃技と防御技）の写真・用語・解説

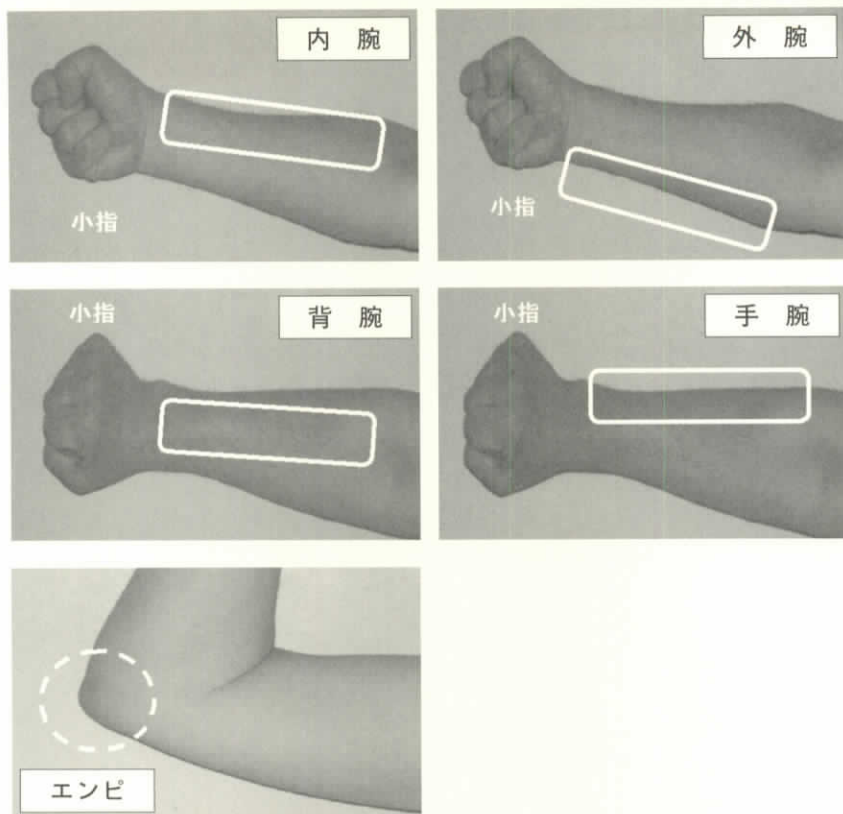


Fig. 6 腕部（攻撃面と防御面）の写真 (The Photograph of the Forearm (the Attack Phase and Defense Phase))

### 3.7 b 腕部（攻撃技と防御技）の用語解説

1	内腕(腕刀)	ない わん	Nai Wan	Inner Forearm	내완
---	--------	-------	---------	---------------	----

[解説] 内腕(腕刀)とはしゅぼう(手棒)ともいい、主に受け方や払方に使用する目的である。腕の部には、前腕橈側部(内腕)、前腕尺側部(外腕)、えんび(猿臂)・(肘)および手部・背腕部に分類できる。一方、腕刀とは別名「小手」ともいい、内腕・外腕・背腕に分類できる。ここで、内腕(腕刀)とは、腕の小指側(骨の名称:しゃく(尺)骨側)部分であることから、手の甲を上げると四指側の腕の外側である。

[攻撃目標] 攻撃を受けた時に、接近戦の時に返し技として有効な部分で、敵対意欲を消失する威力がある。

2	外腕(腕刀)	がい わん	Gai Wan	Outside Forearm	외완
---	--------	-------	---------	-----------------	----

[解説] 腕の部には、前腕橈側部 (内腕)、前腕尺側部 (外腕)、えんび (猿臂)・(肘) および手部・背腕部に分類できる。一方、腕刀とは別名「小手」ともいい、内腕・外腕・背腕に分類できる。ここで、外腕(腕刀)とは、腕の親指側(骨の名称:とう骨側)部分であることから、手の甲を上げると四指側の腕の内側である。すなわち、内腕(腕刀)の反対側である。

[攻撃目標] 攻撃を受けた時に、接近戦の時に破壊技として有効な部分である。

3	背腕(腕刀)	はい わん	Hai Wan	Back Arm	배완
---	--------	-------	---------	----------	----

[解説] 腕の部には、前腕橈側部 (内腕)、前腕尺側部 (外腕)、えんび (猿臂)・(肘) および手部・背腕部に分類できる。一方、腕刀とは別名「小手」ともいい、内腕・外腕・背腕に分類できる。ここで、背腕(腕刀)とは、手の甲を上げると四指側の腕の内側で、手首から連続した腕の部分である。

[攻撃目標] 攻撃を受けた時に、接近戦の時に返し技として有効な部分である。

4	手腕	しゅわん	Shuwan	Skill	수완
---	----	------	--------	-------	----

[解説] 腕の部には、前腕橈側部 (内腕)、前腕尺側部 (外腕)、えんび (猿臂)・(肘) および手部・背腕部に分類できる。一方、腕刀とは別名「小手」ともいい、内腕・外腕・背腕に分類できる。ここで、手腕(腕刀)とは、腕の小指側である。

[攻撃目標] 当てる所は中指と人差し指のつけ根の関節部分で、攻撃を受けた時に、接近戦の時に返し技として有効な部分である。第二関節は無関係である。

5	猿臂(肘)	えんび	Empi	Elbow	원비
---	-------	-----	------	-------	----

[解説] 猿臂(肘)とは、上腕と前腕とつながる部分であり、肘を曲げると関節の骨部分である。猿臂とは、非常硬く、強力な力を発揮するため「ひじ(肘)鉄砲」ともいわれる。攻撃を受けた時に、接近戦の時に返し技として相当な破壊力を発揮できる有効な部分であり、さらに、突きや蹴りに対する防御戦にも有効な効果がある。

[関連用語] 肘打ち、猿臂打ち、肘横打ち、肘当て。

[攻撃目標] [上段] 使用しない。[中段] ワキノシタ・腋窩・浮動肋骨・腎臓・肩甲骨・水月・溝落。[下段] ヒカガミ・腓窩・膝下への攻撃に重要な技。

#### 4. 急所と手技術の相関関係

Table 3 急所と手技術との相関関係 (上中下順) (The Correlation Model between Vital Spots and Hand Technology)

		急 所	裏拳	熊手	鉄槌	正拳	手刀	中高拳	背刀	貫手	肘
1	上段	喉仏						○		○	
2	上段	小脳						○			
3	上段	眉間・鳥兎	○			○		○	○		
4	上段	下顎		○		○					
5	上段	顎				○					
6	上段	人中	○			○		○	○		
7	上段	側頭					○		○		
8	上段	頭蓋			○						
9	上段	コメカミ・側頭	○	○	○	○		○	○		
10	中段	臍下丹田・腹部				○					
11	中段	ワキノシタ 腋窩						○			○
12	中段	鎖骨			○		○				
13	中段	浮動肋骨	○		○	○		○			○
14	中段	内尺沢・内手首	○		○	○		○			
15	中段	腎臓	○		○	○		○			○
16	中段	肩甲骨	○		○	○		○			○
17	中段	頸椎	○		○	○		○			○
18	中段	水月・溝落	○		○	○		○		○	○
19	中段	気管						○		○	
20	下段	金的・睾丸					○				
21	下段	ヒカガミ・腓高 ・膝下	○	○	○	○	○	○	○	○	○

Table 4 急所と手技術との相関関係(ABC順)(The Correlation Model between Vital Spots and Hand Technology)

番号	段位	急所		Back Fist	Bear Hand	Bottom Fist	Fore Fist	Knife Hand	Knuckle Fist	Ridge Hand	Spear Hand	Elbow
				裏拳	熊手	鉄槌	正拳	手刀	中高拳	背刀	貫手	肘
1	中段	Abdomen	臍下丹田・腹部				○					
2	上段	Adam's Apple	喉仏						○		○	
3	中段	Armpit	ワキノシタ 腋窩						○			○
4	上段	Base of Cerebellum	小脳						○			
5	上段	Bridge of Nose	眉間・鳥兎	○			○		○	○		
6	上段	Chin	下顎		○		○					
7	中段	Clavicle	鎖骨			○		○				
8	中段	Floating Ribs	浮動肋骨	○		○	○		○			○
9	下段	Groin, Testes	金的・睾丸					○				
10	下段	Hollow of Knee	ヒカガミ・腓高 ・膝下	○	○	○	○	○	○	○	○	○
11	中段	Inner Wrist	内尺沢・内手首	○		○	○		○			
12	上段	Jaw	顎				○					
13	中段	Kidney	腎臓	○		○	○		○			○
14	上段	Philtrum	人中	○			○		○	○		
15	中段	Scapular, Upper Back	肩甲骨	○		○	○		○			○
16	上段	Side of Neck	側頸					○		○		
17	上段	Skull	頭蓋			○						
18	中段	Small of Back	頸椎	○		○	○		○			○
19	中段	Solar Plexus	水月・溝落	○		○	○		○			○
20	上段	Temple	コメカミ・側頭	○	○	○	○		○	○		
21	中段	Windpipe	気管						○		○	

Model 1 急所と手技術との相関モデル (The Correlation Model between Vital Spots and Hand Technology)

上肢の技術	裏拳	上段	眉間・鳥兎	人中	コメカミ・側頭				
		中段	浮動肋骨	水月・溝落	腎臓	頸椎	肩甲骨	内尺沢・内手首	
		下段	ヒカガミ・腓高・膝下						
	熊手	上段	下顎		コメカミ・側頭				
		中段							
		下段	ヒカガミ・腓高・膝下						
	鉄槌	上段	コメカミ・側頭	頭蓋					
		中段	浮動肋骨	水月・溝落	腎臓	鎖骨	頸椎	気管	
		下段	ヒカガミ・腓高・膝下						
	正拳	上段	眉間・鳥兎	側顎	人中	下顎	コメカミ・側頭		
中段		臍下丹田・腹部	浮動肋骨	内尺沢・内手首	腎臓	肩甲骨	頸椎	水月・溝落	
下段		ヒカガミ・腓高・膝下							
手刀	上段	側顎							
	中段	鎖骨							
	下段	金的・拳丸							
中高拳	上段	喉仏	小脳	眉間・鳥兎	人中				
	中段	ワキノシタ・腋高	浮動肋骨	内尺沢・内手首	腎臓	頸椎	水月・溝落	気管	
	下段	ヒカガミ・腓高・膝下							
貫手	上段	喉仏							
	中段	水月・溝落	気管						
	下段	ヒカガミ・腓高・膝下							
肘	上段								
	中段	ワキノシタ・腋高	浮動肋骨	腎臓	肩甲骨	頸椎	水月・溝落		
	下段	ヒカガミ・腓高・膝下							



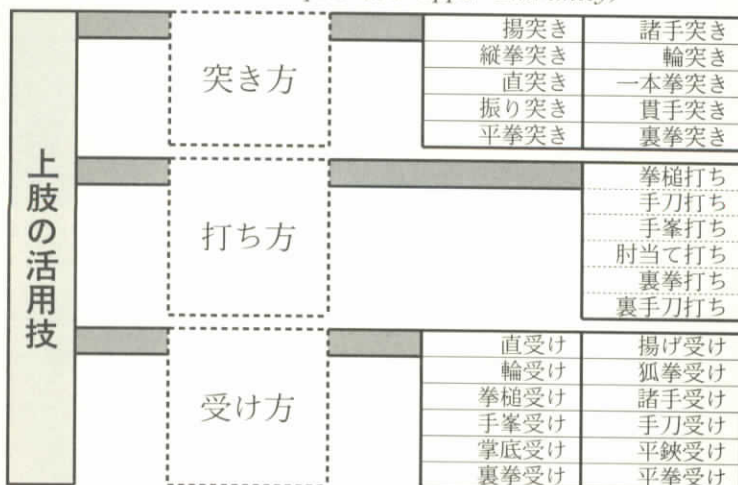
### 5. 手関連の突き方・打ち方・受け方の関係

Table 5 上肢に対する突き方、打ち方と受け方との相関関係 (The Correlation Relation between Punch, Striking and Block Techniques for Upper Extremity)

	上肢	突き方	打ち方	受け方		上肢	突き方	打ち方	受け方
1		揚げ突き		揚げ受け	12	掌底			○
2	一本拳	○			13	大拳頭			
3	裏拳	○	○	○	14		縦拳突き		
4	裏手刀		○	○	15		直突き		直受け
5	拳槌		○	○	16	貫手	○		
6	狐拳			○	17	肘		○	○
7	小手				18		振り突き		
8	指鉞				19	平鉞			○
9	手峯		○	○	20		平拳突き		平拳受け
10	手刀		○	○	21		諸手突き		諸手受け
11	小拳頭				22		輪突き		輪突き

上肢は、一本拳・裏拳・裏手拳を初め小拳頭までの12技がある。上肢の突き方・打ち方・受け方のモデルは、それぞれ3通りの上肢の技がある。ここでは、上肢の活用に関連する適用モデルを表示した。

Model 2 上肢と突き方、打ち方と受け方との相関モデル (The Correlation Model between Punch, Striking and Block Techniques and Upper Extremity)



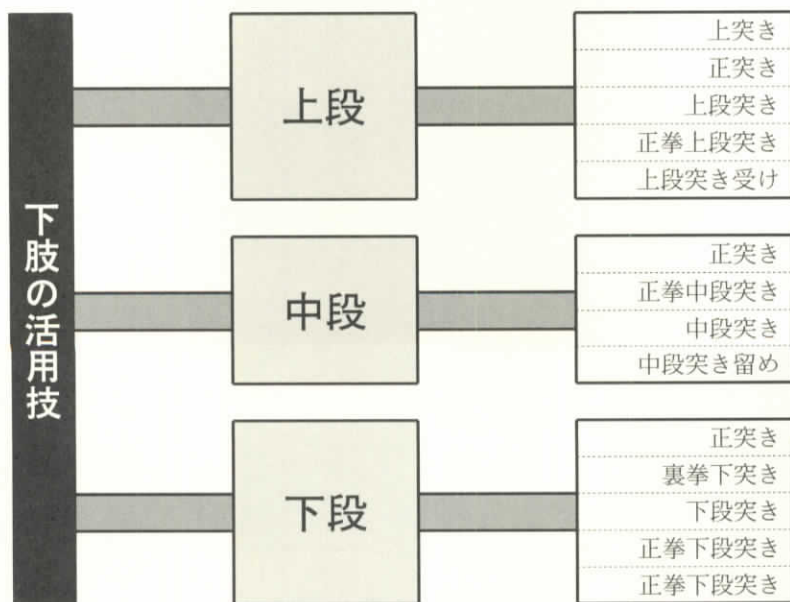
上肢の突き方・打ち方・受け方のモデルは、それぞれ3通りの上肢の技がある。ここでは、上肢の活用に関連する適用モデルを図示した。

## 6. 突き方と上段/中段/下段との関係とは

Table 6 突き方に対する上段・中段・下段との相関関係 (The Correlation Relation between Upper, Middle and Lower Level for Punch Techniques)

	突き方	上段	中段	下段		突き方	上段	中段	下段
1	上突き	○			5	上段突き	○		
2	正突き	○	○	○	6	正拳突き	○	○	○
3	裏拳突き			○	7	中段突き		○	
4	下段突き			○	8	突き	上段突き受け	中段突き留め	

Model 3 突き方と上段・中段・下段との相関モデル (The Correlation Model between Punch Techniques for Upper, Middle and Lower Level and Punch Techniques)



### 7. 受け方と上段/中段/下段との相関とは

Table 7 受け方に対する上段・中段・下段との相関関係 (The Correlation Relation between Upper, Middle and Lower Level for Block Techniques)

	受け方	上 段	中 段	下 段
1	揚げ受け	○		
2	受け流し		○	
3	裏受け		○	
4	上段打落し	○		
5	掻き分け		○	
6	掛手		○	
7	合掌受け		○	
8	空受け	○		
9	繰り受け	○		
10	拳支受け		○	
11	弧受け	○	○	
12	交叉受け	○	○	○
13	小手受け	○	○	
14	差手	○		
15	手刀		○	○
16	掌底受け		○	
17	掬い受け		○	○
18	掬い留			○
19	大裏受け		○	
20	突き	上段突き受け	中段突き留め	
21	二の腕		○	
22	払い受け		中段払い受け	下段払い受け
23	肘		中段肘受け	下段膝返し
24	肘支		中段肘支受け	
25	平行		○	
26	振り捨て			○
27	横受け		○	
28	横払い	○	○	
29	横打ち	○	○	
30	輪受け	○	○	○

Model 4 上段・中段・下段に対する受け方との相關モデル (The Correlation Model between Block Techniques for Upper, Middle and Lower Level)

受け方の技	上段	上段揚げ受け	上段差手	上段打落とし
		上段繰り受け	上段弧受け	上段空受け
		上段交叉受け	上段横打ち	上段横払い
		上段小手受け	上段突き受け	上段輪受け
	中段	中段払い受け	中段手刀受け	中段掛手
		中段肘支受け	中段掌底受け	中段平行
		中段受け流し	中段合掌受け	中段横打ち
		中段拳支受け	中段小手受け	中段横払い
		中段掬い受け	中段肘受け	中段横受け
		中段大裏受け	中段裏受け	中段輪受け
		中段突き留め	中段弧受け	中段掻き分
		中段交叉受け	中段二の腕	
下段	下段払い受け	下段掬い受け	下段膝返し	
	下段交叉受け	下段手刀払い	下段輪受け	
	下段掬い留め	下段振り捨て		

## 8. おわりに

人間と空手道との関係において、古代の宗教家や行脚僧侶は、仏教を広めるため各地を巡行する時に、異宗教家や異民族間の迫害や衝突があったと思われる。同様に、宣教師は、キリスト教を布教するため多くの困難を克服したことが理解できる。宗教家は、寺院などを守ることや自分の身体を危険から守るためにも、周囲からの警戒心を与えないためにも、武器を持たない闘争術が盛んであった。すなわち、手足による武術修練の必要性を痛感したと思われる。

生命を維持する人体の各部は、急所を含め上段・中段・下段に分類できる。駆使される手・肘・膝・足等が、攻撃や防御に重要な役割を果たすのである。

空手道の略史と IT による手技術と急所の相関モデル (沢、摩文仁、樋口、長田)

攻撃の基本技法の修練に関する名称は、突き方 (順突き・逆突き・揚げ突き等)、打ち方 (裏拳打ち・拳槌打ち・手刀打ち等)、当て方 (肘当て・膝当て) そして蹴り方 (前蹴り・横蹴り・飛び蹴り等) の 4 種類に分類できる。防御の基本技法の修練に関するものとしては、個有 (揚げ受け・中段腕受け・下段払い)・部分 (背刀受け・手刀受け・底掌受け等)・運動 (押え受け・掛け受け・すくい受け) 名称がある。

空手道の用語には、①人体の急所 (上～下段)、②手・腕の上肢部分は 97 用語、③右手の骨格 (背側面) の写真と 17 用語解説、④右手の骨格 (掌側面) の写真と 7 用語解説、⑤拳部の写真と 6 用語解説、⑥貫手の写真と 6 用語解説、⑦手拳の写真と 6 用語解説、⑧腕部の写真と 5 用語解説を行った。

空手道の技法は、突き方・当て方・受け方および蹴り方に分類できる。ここでは、上技法の基本を中心にした相関関係と相関モデル、さらに、急所を含め上段・中段・下段に関する関係とモデルを考案した。

本論文を作成するに当たり、用語の選定に関して懇切なご指導を頂いた大阪市空手道連盟会長兼大阪府空手道連盟理事長であり、賢友流空手道の友寄隆一郎宗家、また、手技の解説を行うために使用する X 線写真撮影には、畿央大学健康科学部教授の松島理郎博士に深甚の謝意を表す。

IT による情報分析からデザインおよび相関モデルの作成のために多大なるご尽力を頂いた、シーラン (株) 古内利枝氏を始め、藤田浩史・上原章弘と肥塚義明の各氏に厚くお礼申し上げる。

### 空手道の参考文献

- 1 H.NISHIYAMA・R.C.BROWN (1960) 『空手 KARATE』. Charles E.Tuttle (Tokyo)

- 2 摩文仁賢栄 (1965) 『空手道』. 愛隆社
- 3 中山正敏 (1965) 『空手道新教程』. 鶴書房
- 4 祝嶺制献 (1970) 『新空手道教範』. 日本文芸社
- 5 M. Nakayama (1977) 『Best KARATE 1 Comprehensive』. Kodansha American
- 6 坂上隆祥 (1978) 『空手道型大鑑』. 日貿出版社
- 7 M. Nakayama (1978) 『Best KARATE 2 Fundamentals』. Kodansha American
- 8 金澤弘和 (1981) 『空手型全集 (上)』. 池田書店
- 9 真野高一 (1984) 『空手』. 日本文芸社
- 10 長嶺将真 (1986) 『史実と口伝を守る沖縄の空手・角力名人伝』. 新人物往来社
- 11 宮城篤正 (1987) 『空手の歴史』. ひるぎ社
- 12 友寄隆一郎 (1991) 『空手道の教本—空手武術の概念と実習』. 関西大学出版部
- 13 内藤武宣 (1994) 『空手道』. 東京書店
- 14 全日本空手道連盟 (1995) 『空手道指定型』. ベースボール・マガジン社
- 15 中山正敏著 姜泰鼎訳 (1995) 『ベスト空手道全書 1 総合編』. 韓国 書林文化社
- 16 儀間真謹・藤原稜三対談 (1996) 『近代空手道の歴史を語る』. ベースボール・マガジン社
- 17 摩文仁賢和・仲曾根源和 (1996) 『攻防拳法・空手道入門』. 榕樹社
- 18 金澤弘和 (1987) 『空手組手全集 (英文・仏文併記)』. 池田書店
- 19 日本医学会 医学用語辞典 和英 (1997) 『日本医学会 医学用語管理委員会』. 南山堂
- 20 内藤武宣 (1998) 『空手道全書』. 東京書店
- 21 内藤武宣 (1999) 『空手道独習教本』. 東京書店
- 22 内藤武宣 (1999) 『絵説空手道』. 東京書店
- 23 H.NISHIYAMA・R.C.BROWN (2000) 『KARATE The Art of "Empty-

- Hand" Fighting』. Tuttle Publishing
- 24 高島令三・山室利夫 (2000) 『英和独医語辞典』. 文光堂
  - 25 外間哲弘編著 (2001) 『空手道歴史年表』. 沖縄図書センター
  - 26 J.M. FRAGUAS (2001) 『KARATE Masters』. Unique Publications
  - 27 下中直人 (2001) 『ポケット からだ辞典』. 平凡社
  - 28 T. KUBOTA (2002) 『Fighting KARATE』. Unique Publications
  - 29 李 宇柱 (2002) 『英韓・韓英 医学辞典』. 韓国 Academy 書籍
  - 30 道原伸司 (2002) 『スポーツシリーズ 図解コーチ空手道』. 成美堂出版
  - 31 全日本空手道連盟 (2002) 『空手道形教範 指定形』. ベースボール・マガジン社
  - 32 J.BREASLEY (2003) 『Mastering KARATE』. Human Kinetics
  - 33 李宇柱 (2003) 『英韓・韓英 医学辞典』. 韓国 Academy 書籍
  - 34 仲宗根源和 (2003) 『空手研究 (復刻版)』. 榕樹書林
  - 35 沢 勲 (2003) 「空手道の組織モデル考案」. 大阪経済法科大学体育研究会講演集
  - 36 沢 勲 (2003) 「空手道の人体急所と技の相関モデル」. 大阪経済法科大学体育研究会講演集
  - 37 沢 勲 (2004) 「IT による空手道の手技術と急所の相関分析」. 大阪経済法科大学体育研究会講演集

the 1980s. The 1980s have been a decade of change for the world of international business. The 1980s have seen the rise of the multinational corporation, the growth of the global market, and the emergence of new players in the international arena.

The 1980s have also seen the rise of the global market. The global market has become a reality, and it is now possible to do business in any part of the world. This has led to a new era of international business, one in which companies are no longer limited to their home markets.

The 1980s have also seen the emergence of new players in the international arena. These new players include the emerging markets, the developing countries, and the newly industrialized countries. These countries are now becoming major players in the global market.

The 1980s have also seen the rise of the multinational corporation. The multinational corporation has become a dominant force in the global market. These companies are now operating in many different countries, and they are becoming increasingly global in their operations.

The 1980s have also seen the growth of the global market. The global market has become a reality, and it is now possible to do business in any part of the world. This has led to a new era of international business, one in which companies are no longer limited to their home markets.

The 1980s have also seen the emergence of new players in the international arena. These new players include the emerging markets, the developing countries, and the newly industrialized countries. These countries are now becoming major players in the global market.

The 1980s have also seen the rise of the multinational corporation. The multinational corporation has become a dominant force in the global market. These companies are now operating in many different countries, and they are becoming increasingly global in their operations.

The 1980s have also seen the growth of the global market. The global market has become a reality, and it is now possible to do business in any part of the world. This has led to a new era of international business, one in which companies are no longer limited to their home markets.

The 1980s have also seen the emergence of new players in the international arena. These new players include the emerging markets, the developing countries, and the newly industrialized countries. These countries are now becoming major players in the global market.

The 1980s have also seen the rise of the multinational corporation. The multinational corporation has become a dominant force in the global market. These companies are now operating in many different countries, and they are becoming increasingly global in their operations.

The 1980s have also seen the growth of the global market. The global market has become a reality, and it is now possible to do business in any part of the world. This has led to a new era of international business, one in which companies are no longer limited to their home markets.

The 1980s have also seen the emergence of new players in the international arena. These new players include the emerging markets, the developing countries, and the newly industrialized countries. These countries are now becoming major players in the global market.

The 1980s have also seen the rise of the multinational corporation. The multinational corporation has become a dominant force in the global market. These companies are now operating in many different countries, and they are becoming increasingly global in their operations.